

平成29年度 君津西地区 地域ケア会議 報告書



平成29年10月12日（木）、平成30年2月19日（月）君津市周西公民館にて、

「ちょっとした手助け」について意見交換を行いました。

内容

平成29年10月に実施した、1回目の地域ケア会議では、平成28年度に検討した課題から、「社会資源一覧表の活用」と、「地域でのちょっとした手助けの実現について」というテーマで話し合いを行いました。社会資源一覧表に関しては今後、高齢者を支援している関係者が活用できるよう整理していくこととしました。また、ちょっとした手助けに関しては、「手助けをすることができる人」をどのようにして増やしていくか話し合いをしました。

2回目の地域ケア会議については、どのようにすれば「ちょっとした手助けの活動が活性化するのか意見交換を行いました。

ご意見

●ちょっとした手助けについて

- ちょっとした手助けに関して、内容や、テーマを絞った方がいいのではないか。
- 周西地区にあるボランティア団体や自助団体に関しては、すさい認知症サポーターの会、福祉研究会、大和田詩吟同好会、ゆうゆう会、さつきの会、ナルク、メイトサロン等がある。また、市全域で活動しているものについては、社会福祉協議会のあんしん事業、コープみらいのおたがいさまがある。
- 君津台連合会では、行事やサークル活動、毎朝のラジオ体操を通してお互いに気にかけて、普段来ている人が参加していないと、気にかけるようになっている。
- 新住民が集まって暮らしている地域と、もともとの住民で暮らしている地域とでは考え方も違う。新住民は地元の活動に入りにくい。
- たくさんの団体を一つにまとめることはできないが、地域ごとの活動を生活支援コーディネーターが把握し、地域の課題の解決に結びつけることも必要。
- まず、住民意識の改革を始める事。すぐお助け隊として立ち上げるのは難しい。

ご意見

- 資源マップに手助けをしてくれる団体を入れてはどうか。各団体を住民に知ってもらうことが必要ではないか。また、シニアクラブ活動をしている人にお互いの団体を知る取り組みがあってもよいのではないか。
- あんしん事業や、ナルクなど、すでに活動している人は、本当に困っている人の実態について知っているのではないか。聞いてみる場を持つのもよいのではないか。また、住民相手に困っていることについて聞いていくことも必要ではないか。

生活支援コーディネーターについて

高齢者を地域で支え合う体制の整備を目的として、地域において次の活動をおこないます。

- ①各地域における高齢者の支援のニーズの把握、生活支援等サービス（支え合い活動等）の体制整備
- ②関係者間の情報共有、地域包括支援センター、地域の各団体とのネットワークの構築など

君津市では、この「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」の配置に関する業務を、社会福祉法人君津市社会福祉協議会に委託しています。

まとめ

- 実際に活動している団体から、地域で困っている人の実態や、どのように解決をしているのかについて聞いていく場を設ける。いくつかの団体に来てもらい、意見交換を行う。あわせて、地域住民に周知するための方法を検討していく。
- 個別の高齢者について、どんな困りごとがあるのかを確認していく。モデル地域を設定し、個別地域ケア会議を開催する。

ご意見を参考にさせていただき、平成30年度の地域ケア会議を実施していきたいと思います。



君津市地域包括支援室
Tel 0439-56-1732
君津市久保2-13-1
君津市 保健福祉部
高齢者支援課